

2026年度（第17期）

事業計画

自 2026年 4月 1日
至 2027年 3月31日

I. 事業方針

(環境)

団塊世代がすべて後期高齢者となる節目であった 2025 年度は過ぎましたが、今後も高齢化の進展等により療費は増加し続け、健康保険組合の財政は依然として厳しい状況にあります。このような状況のもと、短期的な財政改善策を講じつつ、適切な資格管理および保険給付を通じた医療費の適正化を図り、自立的かつ安定的な財政運営をおこなっていかねばなりません。また、保健事業においては、社会情勢の変化等に対応し、性差対策、ロコモティブシンドローム対策、口腔ケア、メンタルヘルス対策、セルフメディケーションの推進および適正服薬の促進など、幅広い取り組みが求められています。こうした課題が山積する中、研究会活動や各種イベント等を通じて相互に学び合い、保険者機能のさらなる強化・向上を図っていくことが重要です。

(2026 年度事業方針)

各健康保険組合においては、効率的かつ効果的な保健事業および事業運営が求められています。本会としては、各組合の取り組みに少しでも寄与できるよう、これまでどおり、健康保険組合間の情報共有や連携、意見交換・議論を、以下の方針のもと推進していきます。

1. 対面およびオンラインを併用した事業活動の推進と、それを支える環境の整備
2. 研究会等で得られた成果の会員間での共有ならびに、厚生労働省・健康保険組合連合会等への情報提供を通じた政策への貢献
3. 保険者フェスタ、学会、専門誌等を通じた活動成果の積極的な発信

II. 事業計画概要

1. 研究会

保険者機能の推進、強化を目的とした活動テーマを設定し、そのテーマに沿って調査、学習、研究を行い、その活動・議論のとりまとめや成果物の作成などを行っております。2026年度は、下記の通り9研究会を設置いたします。各研究会の活動内容については保険者フェスタでの発表や、小冊子にとりまとめ、健保連、厚労省など関係機関に内容を共有するといった形で展開することを予定しています。

2026年度設置研究会

研究会名	活動概要 ※リーダー・担当理事は敬称略
レセプト・健診データ分析研究会	リーダー：宮下 匡弘（計機健保）桐谷 昌樹（三菱商事健保） 担当理事：日原 順二、飯島 一彦、渡邊 眞剛、菊池 勤 ◎全体テーマ 研究会参加健保の健保特定健診&特定保健指導データを共通の分析ツールを使用し、自健保や参加健保全体としての課題抽出およびその対策を検討 ◎グループワーク グループで健診&レセプトデータの深掘り分析を行い保健事業の課題を見つけその改善方法を検討
健診事業のあり方研究会	リーダー：戸津 玲（グラクソ・スミスクライン健保） 担当理事：竹本 覚、小川 英樹 ◎研究テーマ がん検診：精度管理の質の向上と、科学的根拠に基づく検診の実践 特定健診：特に被扶養者を中心とした受診率向上の方策検討 ◎活動目的 参加健保同士で悩みや工夫を共有しながら、健診・検診事業をより良くしていくためのヒントを得る 学会等の外部団体や専門家との交流を通じて、研究会で得られた成果を発信し、最新の考え方を学ぶ
特定保健指導応用研究会	リーダー：佐久間 淳（BIJ 健保） 担当理事：六田 忠志、渡邊 眞剛 ◎特定保健指導の事例検討や情報共有 ◎2025年度から継続して以下の3テーマで分科会活動を行う予定。 ・特定保健指導実施率の向上に対するアプローチ ・特定保健指導対象者のリピーター対策 ・重症化予防に向けての保健事業
女性の健康研究会	リーダー：井坂 徳雄（C&R グループ健保） 担当理事：小川 英樹、海宝 和養 2025年度に引き続き、以下の3つの活動を予定 ・「婦人科検診」「プレコンセプションケア」「更年期症状」の3チームでの研究活動 ・研究会参加健保以外に向けての女性の健康に関する情報発信 ・医療DXを活用した保健事業の取組等に対する財政支援を活用した共同保健事業の検討

研究会名	活動概要 ※リーダー・担当理事は敬称略
シニアの健康研究会	<p>リーダー：山田 京（リクルート健保） 担当理事：若林 国弘、六田 忠志</p> <p>◎ミッション：シニア期の「自立」と「QOL」の追求 ◎活動概要：下記3点の内容での活動を予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康課題の共有とプログラム開発 ・「健診リテラシー」の向上 ・健診項目の追加検討
たばこ対策研究会	<p>リーダー：淵上 武彦（コニカミノルタ健保） 担当理事：松戸 美穂、安井 英二</p> <p>2026年度は主に3つのテーマで活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の習得・各社事例共有 ・喫煙対策に関するチラシ作成 ・チーム活動（分析・外部交流）
療養費適正化研究会	<p>リーダー：原 直人（トピー健保） 担当理事：小宗 邦彦、新谷 真治</p> <p>療養費の適正化に向けて、下記の能力向上を図る活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各健保担当者の実務能力の向上。 ・加入員への正しい療養費の使い方をいかに伝えるか。 ・不適切な申請書は自信をもって不支給にするか。
扶養認定基準研究会	<p>リーダー：赤羽 修（プレス工業健保） 担当理事：小宗 邦彦、菊池 勤</p> <p>2025年度の活動で積み残した、被扶養者及び任継者などの必要性について基礎データの取得と戦略の検討を議論していきたい。また参加健保が必要としている認定審査の情報共有などを行う予定。</p>
適切な傷病手当金給付研究会	<p>リーダー：守谷 祐子（花王健保） 担当理事：海宝 和養、岡 敏樹</p> <p>下記の3つの観点での活動を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病手当金関連課題情報共有と共通フォーマット作成 ・医師照会 ・健保連等との意見交換

2. 医療保険制度ゼミナール

(1) 開催の方向性

これまで健保マネジメント層を対象に、鮮度の高い話題を取り上げた「医保ゼミ」を企画してきました。近年は、常務理事ネットワークや事務長ネットワークで実践的なセミナーが活発に行われ、基礎知識ゼミでも研究会活動と連動した情報共有の場を増やしています。

こうしたなか、医保ゼミでは、役割分担を念頭に、他の行事で扱いにくいテーマや、医療関係者・他保険者とのつながりづくりなど、会の活動の幅を広げる企画を実施していきます。

(2) テーマ分野と講師の選定

- ・医療政策・医療提供・医療DX（官庁、アカデミア、医師会等）

- ・医療現場の実情（医師・患者団体）
- ・保険者の実践（協会けんぽ、自治体国保）
- ・健保事業の実践（産業医、データヘルス関連機関）

3. 基礎知識研修会

会員健康保険組合の一般職員を対象に、業務に必要な知識・スキルの習得を目的として、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催します。内容は、研究会活動をご支援いただいている有識者による勉強会をはじめ、保健事業や業務運営において先進的な取り組みを行っている健康保険組合様による事例共有、参加者同士の議論や情報共有など、多岐にわたります。（開催時期および開催回数は未定）

4. 常務理事ネットワークの会

自健保の持続性、有用性を高める活動を立案する常務理事に必要な“常務理事間のネットワークの充実と構築”を主目的とし、2026年度も常務理事ネットワークを開催します。開催は年3回を目途とします。内容は、各健保の活動や常務理事ならではの悩みを共有し、少人数のグループに分かれて忌憚のない意見交換ができる題材を選択しますが、必要であれば健保活動に関わる時事内容や、健保を取り巻く環境を専門家から解説してもらうことも考えます。また、開催内容に応じて、参加対象者を柔軟にして実施することも検討していく予定です。

5. 事務長ネットワークの会

会員健康保険組合の事務長同士のネットワーク構築を目的として、年2回ハイブリッド形式（対面＋オンライン）で開催します。自主的に運営を支援する事務長を募り、AIの活動を始めとするその時々旬なテーマを決定し、少人数のグループに分かれての議論や情報共有を行います。

6. 保険者フェスタ

「会の一体感」と「活動価値の可視化」をテーマに、今年度も保険者フェスタを開催します。2年目となる今回も多くの研究会に参加いただき、活動成果の発表・共有を通じて、会の主体性や研究会の活発さ・楽しさを会全体でアピールする場を目指します。前回の課題であった「会場の混雑と人流集中の緩和」「研究会側の準備負担の軽減」についても改善を図り、快適に参加できる環境と、継続可能なイベントモデルの構築に取り組みます。開催方針は、各研究会代表にご出席いただく「フェスタ準備会」で協議し、決定していきます。



7. プロジェクト

本会として取り組むべき課題が生じた場合は、プロジェクトを機動的に発足させ活動を実施いたします。今年度は、2つのワーキンググループを設置いたします。

「DX推進ワーキンググループ」は、適用・給付の電子申請をテーマとするとともに、マイナンバー特別研究会の活動を承継し、マイナ保険証およびオンライン資格確認に関する諸課題についても取り組みます。健保連や厚労省などとの意見交換を通じて得られた知見を、会員全体に有益な形で情報共有いたします。

「サイバーセキュリティワーキンググループ」は、これまで委託先セキュリティ研究会が担ってきた活動を引き継ぎつつ、健保を含むヘルスケア領域全般におけるサイバー攻撃の実被害事例を踏まえ、健保の実務担当者が委託先のサイバー対策状況を“初期評価（健康診断）”として独力で確認できる仕組みづくりをテーマとします。本取組を通じて、初期評価の結果にもとづき、委託先への改善指導（生活習慣の改善に相当）や、必要に応じた本格的な監査（精密検査や入院・集中治療に相当）の実施要否を判断するための基本的な枠組みを整備します。最終的には、この枠組みを参加健保にとどめず、推進する会の会員全体にとっての共通資産として還元し、ヘルスケア領域におけるサイバーリスク対策の底上げにつなげます。

Ⅲ. 理事の業務担当

役割	氏名
広報・渉外	小宗 邦彦
財務・経理	小川 英樹
会員サポート	小川 佳政

<各イベント担当>

役割	氏名
保険者フェスタ	★若林 国弘、小川 佳政、新谷 真治、戸津 玲
研究会サポート	★沼越 園子、海宝 和養、松戸 美穂
医療保険制度ゼミナール	★若林 国弘、小川 英樹、六田 忠志、飯島 一彦、日原 順二
基礎知識研修会	★小川 佳政、井坂 徳雄、松戸 美穂
常務理事ネットワークの会	★小宗 邦彦、海宝 和養
事務長ネットワークの会	★小川 佳政、井坂 徳雄、岡 敏樹

★は、各業務の統括者

以上